

セラレ、即時ニ一圓ニ堂モミエヌ様ニツ、マセラレ候へバ、勢州キモヲツブジ此大ナル堂ツ、マレタル事ハ、何方ニモ不可有候トテ、貞宗感ジ候ケルト、其比ノ沙汰ニテ候ツル事ニ候中略正月十五日ノ間モ、山科殿ニテ御堂縁南殿北殿道スガラ、皆イナバキヲツナギシカレタル事ニテ候、當時モ覺タル人モ御入候ベク候云々、築城記云、弓カクシハ三尺ばかりに在之、いなばきを筵まづは可然候云々、甲陽軍鑑卷十九信玄居士 葬送條云、道六間廣く、兩方に虎落モカリをゆひ、いなばきを敷其上に布をしき、其上に絹をしき云々など見えたり、但此等よりもはるかに古き、應安二年の田島注文正木文書に、許多アラタところあるをも見し事あれば、重ねてこゝにしろしそふべし、又出羽國本莊人云、我郷にては上品の筵を、庭ばきと云ふといへり、恐らくは是も同物にて、はきとは散こぼれたる稻穂を、掃よする義なるべし、

〔甲陽軍鑑品第十九第五十一〕一天正三年乙亥四月十二日に、信玄公御とぶらひこれあり、○中略道六間廣く、兩方に虎落モカリをゆひ、いなばきを敷其上に布をしき、勝頼公○中略御親類衆、各御

籠に手を懸、御供なされ候、

〔倭訓栞中編十六〕とむしろ。藤席をいへり

〔和漢三才圖會三十二〕藤筵とうむしろ

按、藤筵、滑美而勝於簾、浴室及納涼鋪之、束捕カガ寨チキダ太泥ニロウコン六甲咬嚼アガガ吧ガラ等南國出之、

以製作爲名

〔延喜式三十八〕織席一枚、長九尺、料擇蘭一圍、芋十五兩、長功十人、五人織手、五人刺蘭手、中功十二人、短功十四人、

織席一枚、長九尺、廣四尺、料擇蘭二尺八寸、芋十三兩、長功十一人、中功十一人、短功十二人、

織席一枚、長九尺、廣三尺六寸、料擇蘭二尺四寸、芋四兩、長功八人、中功十人、短功十二人、

織席一枚、長九尺、廣三尺二寸、料擇蘭二尺四寸、麻十三兩、長功八人、中功十人、短功十二人、